

「東南アジア青年の船」・「世界青年の船」事業に対する 各国政府関係者、在外公館、参加青年からのコメント

(平成21年～24年)

各国政府関係者のコメント

A国 青年担当大臣

- 「世界青年の船」事業は青年交流の観点から極めて重要なプログラムであるので、A国としてできるだけ準備をした上で青年を送り出したい。将来的には我が国への寄港を期待する。

B国 州議会議員

- 「世界青年の船」事業は我が国と日本の友好関係を促進し、次世代の国際的なリーダーとして活躍するための場を提供する優れたものである。

C国 青少年庁局長

- 「世界青年の船」事業はわずか2ヶ月弱の事業だが、参加した全員が非常に親日的・日本の大ファンになって帰ってくる。日本がどのような魔法をかけているか知りたいくらい。C国は周辺国と係争があったりするので、信頼が重要。この事業が如何に世界平和に貢献するものであるかよくわかる。

D国 国際青年交流課長

- 「東南アジア青年の船」事業のインパクトとして、まず我が国には1000人以上の既参加青年がいる。事後活動組織は国内、そして世界中に広がっており、ネットワーキングができています。「東南アジア青年の船」事業とその事後活動組織は、人生に大きな影響を与える。企業家や政治家、各分野の専門家として活躍している人がおり、また、こうした人たちが、しっかりと協力できる体制がある。それぞれの国の指導者になったときに容易にネットワーキングができる。兄弟のような連帯である。また、日本で起こったことが、すぐに伝わり、情報共有される。一つの船で一つの心(One ship, one heart)で生活したことで生まれる心のつながり。これこそが事業の大きな成果だと思う。
- 我が国は、様々な青年国際交流事業を行っているが、「東南アジア青年の船」は間違いなく、最も名声の高い(most prestigious)ものとなっている。

E国 青年スポーツ局部長代理

- 「東南アジア青年の船」は、日本とASEANの友好を結ぶ象徴的な事業である。

F国 青少年局副局長

- 「東南アジア青年の船」を通じて、参加青年が自分たちを理解し、自分の殻から出ることが出来る。また、強い自信を持つことが出来る。事業から戻ってきてからも、参加青年に、大きな影響を保ち続ける事業である。今年は、700名が応募している。参加青年が各地域でリーダーとして頭角を表しており、また世界各地で活躍してい

る。素晴らしいプログラムの今後の継続を希望する。

G国 高等教育局副局長

- 「東南アジア青年の船」に対し、我が国の青年は大変興味を持っている。彼らは得た機会、知識を十分に共有し、G国の安定や発展に寄与している。そして、官公庁や政府の機関で活躍している。招へいに感謝している。

H国 国家青少年委員会幹部

- 「東南アジア青年の船」において、参加青年が学び、共通の話題について話し合う機会があることを高く評価している。現在のグローバル社会の現実を見ることができ、更に寄与している。参加者の2割が公務員となり、国のリーダーとして重要な役職についている。また8割がH国の事後活動組織との連携で、地域社会のリーダー、社会の相互交流を促進している。また、愛国心、ボランティア精神、文化の共有、社会の統合をもたらした。

I国 青少年保護・促進局部長

- 「東南アジア青年の船」について、皆が共通して理解しているのは、若者たちに多大な影響力を持っており、事業をきっかけにして、多数の若者が社会で活躍しているということ。事後活動組織を立ちあげたことで、政府とのパートナーシップを組むことができ、I国の発展に寄与している。政府と共有、協働している。将来的に若者たちに政策の計画、実施に参加してほしいと思っている。成功した既参加青年は、学術機関の教授や団体のリーダーとして活躍し、I国の更なる発展に寄与するであろう。効果が継続して発展していく事業だと思う。

J国 国際青年協力開発センター副所長

- 「東南アジア青年の船」は、若者への影響を通じて、ASEANや日本の知識を深め、ASEANと日本の協力を強化にした。この事業が若者の指導性を育成し発展させた。若者の可能性を発展させた。事業後、より成熟し、育成につながった。既参加青年のみならず、その他の若者にも影響を与えている。